

アイヌ口承文芸テキスト集 2 1  
白沢ナベ口述  
ウエペケレ カラスの恩返し

採録・訳・註 中川裕

キーワード：アイヌ語、口承文芸、散文説話

このテキストは、千歳市蘭越出身の白沢ナベ氏（1905-93：戸籍上は 1906-）の語りによる uepeker「散文説話」で、1990年10月1日に白沢氏の自宅において録音したものである。整理番号は N9010012UP。北海道開拓記念館（現北海道博物館）研究員の出利葉浩司氏が同席している。

あらすじ

私は大層な長者だったが、狩に行くとき二頭も三頭も獲物をとって、裕福に暮らしていた。妻も畑仕事をして、たくさんの作物を採り、二つも三つも倉を建てた。私は山へ行って獲物を獲ると、棚を作って「カラスの神様におすそ分けします」と言いながら、その上に脂身や肉を切って乗せた。

そうして暮らしているうちに、ある日夢を見た。いかにも神様という風貌の方が、私の枕元に座っていて、私の方を向くと言った。

「私はカラスの神だ。お前は心の良い長者であるので、熊を獲っても鹿を獲っても、私たちの食べる肉を棚の上に乗せておすそ分けをしてくれる。そのことに満足して感謝しているので、これから狩に行っても、立派な鹿ばかり、立派な熊ばかり獲れるように見守ってやろう。

そして、お前には子供ができないことになっていたのだが、男の子も女の子も大勢生まれて、その子たちがお前の面倒も見てくれることになるだろう。よくよく私の言葉を聞くのだぞ」という夢を見た。翌朝起きた私は拝礼を重ねた。

私たちにははたしかに子供がおらず、さみしい暮らしをしていたのだが、それから一年ほど経って、妻が子供を宿した。生まれた子供を見ると、私の半分を割いたような、私そっくりの立派な男の子であった。その子を妻と取りあいしながら、かわいがって大事に育てていた。それから、妻は女の子も男の子も大勢産んだ。息子が大きくなると、私は山の狩の仕方を教えた。山のどこを歩くと立派な鹿が獲れ、どこを歩くと立派な熊が獲れるのかを、連れ歩いて教えたので、私と同じくら

い狩が上手になった。魚を獲りに行っても、私のように立派な魚ばかりを獲って来るので、いつも良い食事をしていた。息子たちが順々に大きくなると、順々に狩の仕方や魚獲りの仕方を教えた。

娘たちも順々に大きくなると、妻が大きなきれ、小さなきれを与えた。最初のうち娘たちは上手に裁縫ができないので小さく縫い縮めてしまうが、妻は「立派な女の子だから上手に縫えるね」とほめそやしたので、大きくなると何を作らせてもとても上手に作り、美しい刺繍ができるようになった。娘たちは大きくなると妻の畑仕事も手伝い、秋になると収穫を上げて二つの倉、三つの倉を建てた。

息子たちも山へ行くと、二頭の獲物、三頭の獲物を獲るようになり、私は自分の家の周りに息子たちの家を建てて、そこに美しい女性を妻に迎えさせた。娘たちも私の家の周りに家を建てさせ、立派な長者を夫に迎えた。息子たちは立派な熊、大きな熊を獲ると、私を招いてご馳走をたくさん食べさせてくれ、帰りには肉の良いところを土産に持たせてくれる。そうやって何を食べたいとも欲しいとも思わずに暮しているうち、私も妻も年老いた。嫁たちも畑仕事をして二つの倉を建て、三つの倉を建ててくれる。

カラスの神がいつまでも私を見守ってくれると言ったので、子供たちのことも見守ってくれているのだと思い、私はお酒を造ってはカラスの神をお祀りしたので、息子たちも怪我をすることもなく狩に行く様子を見ながら、いっそう長者となってくらしているうちに、もはや年をとった。

何か悪いことをすると悪い方へ向かっていくものだが、何か良いことをすると良い方へ向かうのだと息子たちにも娘たちにも言い聞かせた。そうしているうちに孫も大勢できて、今は年老いたが、カラスの神が私を見守ってくれたおかげで、本当の長者となって人生を終えるので、そのことを語り残してこの世を去るのだよと、一人の長者が語った。

## 解説

これはまた、何事も事件らしい事件が起きない uepeker「散文説話」である。簡単に言ってしまうと、狩の度に獲物の肉をカラスにおすそ分けしていたことで、そのカラスから見守られることになり、獲物に不自由しなくなるだけでなく、子宝も授かって、大勢の子供たちに囲まれ、何不自由ない一生を送ることになったという話である。ドラマ的な要素は何もないと言ってしまってもいい。

逆に言えば、uepeker がかつて実在した人の体験を伝える「事実」の伝承であるということの、例証と言うべき一例だと言うこともできる。

ドラマチックな話は、いわば「娯楽性」ということで伝承が支えられているという側面がある。

聞いて面白い、楽しいからそれを覚えてまた語り伝える。エンターテインメント性の高い物語は、そのようにして人の口から口へ伝えられ、その間にさまざまな脚色が意識的に、また無意識に加えられて、より面白い話へと変貌していくのだらうと思われる。筆者が岩波書店の『図書』という雑誌で、2年間にわたり検討を加えていた *kutune sirka* 「虎杖丸の曲」という *yukar* 「英雄叙事詩」も、そのようにしてさまざまなバージョンができていったのだらうと想像される。

それに対して、このようなドラマ性も何もない話は、どのような動機で語り伝えられてきたのだらうか。それが「本当の話」だと信じられたからこそではないか。ここで語られていることは、かつての人たちにとって真実なのであり、だからこそ後代の人間に伝える必要があると考えられたのであろう。

この物語のポイントはいくつかあるが、ひとつは、主人公に肉を捧げられる相手が *paskur* 「カラス」だということである。カラスは現在でも人間がいるところにはどこにでもいる鳥であり、畑の作物や、蓄えてある食料、ごみとして捨てたものまでなんでもあさる、あえて言えば人間にとって迷惑な存在であり、物語の中でもあまり格の高い扱われ方をしない。しかし、そういうものにあえて肉を供え、祈りを捧げるということで、この主人公は多大な恩恵を得るのである。

もうひとつは *po sak kusu an kur* 「子供ができないことになっている者」である主人公が、カラスを祀ったことによって、子供に恵まれ、幸せな人生を送ることになるという点である。つまり人間には定まった「運命」のようなものがあるらしいが、それは心掛け次第で変えることができるということである。格の低いカムイであれ、それを軽んじずに祀ることで、自力では左右することのできないことも、良い方へ変えて行くことができる。それは自然に比べ人間の力の小さなことをよく知っていたかつての人々にとって、大いに力づけられる考え方であっただらう。

それを的確に表わしたのが、最後に出てくる *nep ka a=kar katu wen kor wen eoma p ne korka, nep ka a=kar katu pirka kor pirka eoma p ne na*。「何か悪いことをすると悪い方へ向かっていくものだが、何か良いことをすると良い方へ向かうのだ」という言葉であらう。これこそが、この物語の主題だと言って良い。

## テキストの表記法について

= (イコール) は、その前あるいはその後にあるものが人称接辞であることを示す。

\_ (アンダーバー) を付したものは、その前の音素が交替して別の音素になっていることを示す。

例えば、*nep a=kor\_rusuy* → *nep a=kon rusuy*。 *ekimne=an w\_a* → *ekimne=an ma*。 *h\_i* のような例では、*h* が脱落することを示す。

... とあるのは、単なるポーズ、言いよどみを表すのではなく、その後で明らかに別の語句に言い直したと思われる場合に付す。

<ne>のように<>で示したのは、発話の最後の音節を繰り返す形で、次の発話までの間をとる語用上の形式である。

註はページごとに脚註の形で示した。脚註等における N9010012FN のような記号は、私の採録した資料の整理番号である。N(白沢ナベ) 90 (1990年) 10 (10月) 01 (1日に録音した) 2 (二番目のテープに収録されている) ことを示す。FN はフィールドノートの意味で、録音全体を聞き起したものを指す。

#### 参照文献略称

- 『久保寺辞典』: 久保寺逸彦 (2020) 『アイヌ語・日本語辞典稿』草風館  
『沙流方言辞典』: 田村すず子 (1996) 『アイヌ語沙流方言辞典』草風館  
『千歳方言辞典』: 中川裕 (1995) 『アイヌ語千歳方言辞典』草風館

## 本文

|                                      |                   |
|--------------------------------------|-------------------|
| sino nispa a=ne wa                   | 私は大層な長者で          |
| an=an pe ne hike <ke>                | あったのだが            |
| ekimne=an kor tup sumawe a=kor_      | 山へ狩に行くくと二頭の獲物を獲り  |
| rep sumawe a=kor.                    | 三頭の獲物を獲る。         |
| nep a=e rusuy                        | 何を食べたいとも          |
| nep a=kor_ rusuy ka somo ki.         | 何を欲しいとも思わずにいた。    |
| a=macihi toyta kor                   | 妻は畑仕事をする          |
| tu pu epuni re pu epuni wa           | 二つの倉三つの倉を立て       |
| toyta aep ne yakka                   | 畑の作物も             |
| poronno a=kor pe ne kusu             | たくさん採れたので         |
| ekimne=an kor ... ekimne=an ka ...   | 私は山に行くくと…山に行くことも… |
| ekimne=an w_a kamuy ka a=rayke       | 山に行くと熊も獲り         |
| yuk ka a=rayke kor                   | 鹿も獲ると             |
| sankar=an w_a san ka ta <ta>         | 棚を作って棚の上に         |
| "paskur kamuy a=imekkar siri ne na." | 「カラスの神におすそ分けします」  |
| sekor itak=an kor <kor>              | と言いながら            |
| san ka ta kirpu ka kam ka            | 棚の上に脂身も肉も         |
| a=tuypatuypa wa a=yanke wa           | ぶつぶつ切って上げて        |
| a=anu wa san=an ranke                | 置いていつも山をおりる       |
| nispa a=ne kor an=an <sup>1</sup>    | 長者で私はあった          |
| nispa a=ne wa an=an                  | 長者で私はあった          |
| ruwe ne akusu <su> <su>              | のであり              |
| nep a=e rusuy                        | 何を食べたいとも          |
| nep a=kor_ rusuy ka somo ki no       | 何を欲しいとも思わずに       |
| ramma kane katkor kane <ne>          | いつも変わらず           |
| ekimne=an w_a yuk ka a=ronnu         | 山へ行って鹿も獲り         |

---

<sup>1</sup> nispa a=ne kor an=an : このままだと「長者に私はなりつつある」というような表現になってしまうので、次に nispa a=ne wa an=an と言い直している。

|                                                |                   |
|------------------------------------------------|-------------------|
| kamuy ka a=ronnu kor                           | 熊も獲ると             |
| a=e usike pirka usike a=tuypatuypa wa          | 食べるところ良いところを切って   |
| san ka ta a=anu hawe ene an h_i.               | 棚の上に置いてこう言った。     |
| "paskur kamuy a=imekkar sinne na."             | 「カラスの神におすそ分けしますよ」 |
| sekor itak=an kor a=anu wa                     | と言いながら置いて         |
| san=an ranke kor an=an pe ne akusu             | 山を下りていたところ        |
| sine ancikar wentarap=an humi <sup>2</sup>     | ある夜、夢をみた          |
| ene an h_i <ni>.                               | このように。            |
| kamuy ne kusu kamuy koraci an kur <sup>3</sup> | 神であるからこそ神のようなお方が  |
| i=erupsikehe ta a wa an ayne                   | 私の枕元に座っていて        |
| i=kohetari hine itak hawe ene an h_i.          | 私の方を向くと、こう言った。    |
| "sonno hetap nispa kamuy                       | 「本当に長者殿は          |
| nispa ne kusu kewtumu pirka wa <wa>            | 長者であるから心が良く       |
| a=e kuni p kim ta arpa wa                      | 私たちの食べるものを山に行って   |
| kamuy rayke yakka yuk rayke yakka              | 熊を獲っても鹿を獲っても      |
| a=e kuni kam sinna kar wa i=kohoppa            | 私たちの食べる肉を別に残してくれ  |
| sankar ... e=sankar wa i=kohoppa.              | 棚を作って私たちに残してくれる。  |
| pirka i=koymekkar ki wa                        | 立派におすそ分けをしてくれて    |
| a=eramuriten paskur tono                       | 満足しているカラスの首領で     |
| a=ne ruwe ne wa an=an ruwe                     | 私はある              |
| ene an h_i ne a p                              | のだ。               |
| ene a=utarihi turano a=i=imekkar wa            | 私の一族ともどもおすそ分けして   |
| e=esankar wa                                   | 棚を作って             |
| pirka i=kowsaraye ki wa                        | たくさん分け与えてくれ       |
| i=hoppa ranke ...                              | いつも置いて行ってくれる…     |
| e=hoppa ranke p ne kusu <su>                   | 置いて行ってくれるので       |

<sup>2</sup> wentarap=an humi : 日本語では「夢を見る」と言うが、アイヌ語では siri 「視覚的な様子」ではなく、humi 「視覚と言葉以外でとらえた様子」を用いる。

<sup>3</sup> kamuy ne kusu kamuy koraci an kur : 立派な容貌なので、人間ではなく神（カムイ）としか思えないと言うことを表わす常套句。

|                                               |                   |
|-----------------------------------------------|-------------------|
| pirka iopokisi=an <sup>4</sup> ruwe           | ご馳走をいただくこと        |
| ene an h_i ne wa <wa>                         | このようであり           |
| ene a=eramuriten wa                           | 満足して              |
| ene a=e=koyayattasa h_i ka isam wa            | 感謝してもし足りない        |
| ruwe ne korka                                 | のだが               |
| tewano e=ekimne yakka <ka>                    | これから山へ狩に行っても      |
| pirka e=ekimne ki.                            | よい山猟をすることになる。     |
| pirka yuk patek pirka kamuy patek             | 立派な鹿ばかり、立派な熊ばかり   |
| e=ronnu wa e=rura kuni                        | 獲って来るように          |
| a=e=koinkar orowa <wa>                        | 私が見守ってやる。そして      |
| po sak kusu an kur                            | 子供ができないことになっている者で |
| e=ne ruwe ne korka <ka>                       | お前はあるのだが          |
| po ka poronno                                 | 子供をたくさん           |
| matkaci ka okkaypo ka                         | 女の子も男の子も          |
| poronno e=kor wa <wa>                         | たくさん持って           |
| e=enewsar ka ki.                              | 語らいもする。           |
| e=resu yakun, itasa e=resu ka                 | お前が育てたら、お返しに      |
| a=e=resu ka ki nankor_ na. nu <sup>5</sup> ." | 養われもするだろうぞ。聞くがよい  |
| sekor kane,                                   | などと               |
| "pirka a=e=koinkar ki kusu ne na. nu."        | 「よくよく見守ってやるぞ。聞け」  |
| sekor kane <ne> hawean                        | などと言う。            |
| yak a=takar <sup>6</sup> wa                   | という夢を私は見て         |
| isimne hopuni=an w_a                          | 翌日起きて             |

<sup>4</sup> iopokisi : この説明として白沢氏は「pirka iopokisi=an っていうのは、うまいもの、san (棚) こしらえて、上にごみもつかん砂もつかんように、うまいとおおいてくれたもの食べたから、きれいな iopokisi pirka iopokisi」「先生からわしもらったものわし食べたらさ、pirka iopokisi iyairaikere hap hap (良いご馳走をありがとう。ハブ、ハブ) ってゆわんばならない」のように語っている (N9010012FN)。

<sup>5</sup> nu : 直訳すれば「聞け」ということだが、「私の言うことをちゃんと理解しろよ」というほどの意味。

<sup>6</sup> yak a=takar : takar 「～を夢に見る」は他動詞で、「という」に当たる言葉には yak を用いる。それに対して wentarap は自動詞であり、「という」は sekor を用いる。したがって yak a=takara に対して wentarap を使うと、sekor wentarap=an となる。

|                                             |               |
|---------------------------------------------|---------------|
| onkami=an a onkami=an a <na>                | 拝礼を重ねた        |
| ruwe ene an h_i ne hine                     | のであり          |
| an=an ruwe ne akusu <su>                    | すると           |
| ne hi wano <no> sine pa siran akusu         | それから一年ほど経つと   |
| a=macihi honkor hine <ne>                   | 妻が妊娠して        |
| po sak kusu oka utar ne wa                  | 子供ができない者たち    |
| po ka sak no oka utar ne wa                 | 子供がいない者たちで    |
| mismu oka=an <sup>7</sup> pe ne             | さみしく暮らしていたの   |
| ruwe ne a korka <ka>                        | であったが         |
| a=macihi honkor hine                        | 妻が妊娠して        |
| pokor wa a=nukar akusu                      | 子供を産んで、見ると    |
| a=arke a=yasa pekor an <sup>8</sup>         | 私の半分を割いたような   |
| pirka hekaci kor_ ruwe ene an h_i ne wa     | 立派な男の子が生まれて   |
| orano a=ukoterkere <sup>9</sup> wa          | それを妻と取り合いながら  |
| a=ukoomap kor                               | 一緒にかわいがって     |
| a=pirkaresu a=tomteresu kor oka=an          | 立派に大事に育てていた   |
| ruwe ene an h_i ne akusu                    | のであったが        |
| orowano macihi <sup>10</sup> matkaci ka kor | それから妻は女の子も産み  |
| hekaci ka kor pe ne kusu <su>               | 男の子も産んだので     |
| poronno matkaci ka hekaci ka a=kor wa       | 女の子も男の子も大勢生まれ |
| a=enewsar kor oka=an no                     | 語らいながら暮らしていた。 |
| okkayo po ne hike rupne hike                | 男の子で大きくなった子には |
| ene ekimne=an kor                           | 山の狩の仕方        |
| oro peka ekimne=an kor <sup>11</sup>        | 山のどこを歩くと      |

<sup>7</sup> mismu oka=an : このように mismu が「寂しく」という意味で副詞として使われている例は、私が白沢氏から採録したテキストの中では、これ一例しかない。

<sup>8</sup> a=arke a=yasa pekor an : 「自分そっくりだ」ということを表わす常套句。

<sup>9</sup> ukoterkere : <u- 「互い」 ko- 「～に向かって」 terke 「跳ねる」 -re 「～させる」、ということなので、「取り合って」と訳したが、子供が父親と母親の間を行ったり来たりしているというのが、元の語義に近いだろう。

<sup>10</sup> macihi : a=macihi 「私の妻」となるべきところだが、人称接辞が落ちている。

<sup>11</sup> oro peka ekimne=an kor : 直訳すれば、「そこを山歩きすると」。

|                                                 |                |
|-------------------------------------------------|----------------|
| pirka yuk a=ronnu                               | 立派な鹿が獲れ        |
| pirka kamuy a=ronnu hi                          | 立派な熊が獲れるか      |
| a=tura wa a=epakasnu pa p ne kusu               | 連れ歩いて教えたので     |
| orowano ekimne pa kor                           | それからは山に行っても    |
| i=nenno kane ison pa wa                         | 私と同じくらい狩が上手になり |
| pirka kamuy patek                               | 立派な熊ばかり        |
| pirka yuk patek ronnu.                          | 立派な鹿ばかり獲る。     |
| cep koyki kusu paye yakka                       | 魚を獲りに行っても      |
| i=koraci pirka cep patek ronnu wa               | 私のようによい魚ばかり獲って |
| arki p ne kusu <su>                             | 来るので           |
| pirka ipe patek a=ki kor oka=an a p             | 良い食事ばかりしていたところ |
| a=pohoutari uopokin rupne hike                  | 息子たちも順々に大きくなり  |
| uopokin a=tura wa                               | 順々に私は連れて行って    |
| ene ekimne=an kuni a=epakasnu.                  | 山の狩の仕方を教えた。    |
| oro peka ekimne=an kor poronno <no>             | 山のどこを歩くとたくさん   |
| pirka kamuy a=tomot pe ne hi                    | 立派な熊と出会えるかを    |
| a=epakasnu kor                                  | 教えながら          |
| a=tura wa ekimne ka a=epakasnu.                 | 連れて山の狩も教えた。    |
| cepkoyki ka a=epakasnu.                         | 魚獲りも教えた。       |
| opokin rupne katkemat <sup>12</sup> ne hike     | 順々に大きくなった娘の方も  |
| uopokin rupne hike                              | 順に大きくなった者に     |
| a=macihi rupne sarampe nokan sarampe            | 妻が大きなきれ、小さなきれを |
| sapte wa sama o kor <kor>                       | 出して与えると        |
| kemeyoni kemyonpa <sup>13</sup> hikeka a=macihi | 縫い縮めてしまうが、妻は   |
| "pirka ... pirka matkaci ne kusu                | 「立派な女の子だから     |
| pirka ininu ki ruwe ne."                        | 立派に裁縫ができることだよ」 |
| sekor hawean kor                                | と言いながら         |

<sup>12</sup> **katkemat** : **katkemat** は「大人の立派な女性」の意味だが、ここはまだ子供の段階の話なので、「娘」と訳しておいた。

<sup>13</sup> **kemeyoni kemyonpa** : **kem** 「針」 **e-** 「〜で以て」 **yonni** (単) , **yonpa** (複) 「〜を縮める」。裁縫が下手なので布がひきつれて縮んでしまう。

|                                             |                    |
|---------------------------------------------|--------------------|
| matnepoho utari henkotpa <sup>14</sup>      | 娘たちにうなづいて          |
| omap pe ne kusu                             | かわいがったので           |
| henkotpa kor hoski ... hoski rupne hike     | ほめて先に大きくなった者は      |
| nep a=kare yakka kemeninu                   | 何を作らせても針仕事は        |
| arikinne pirka ininu ki pa                  | とてもすばらしい針さばきで      |
| pirka ikarkar ki pa wa <wa> ekopuntek.      | 美しい刺繍をして（妻は）喜んだ。   |
| a=macihi matnepo utari                      | 妻は娘たちを             |
| kopuntek a kopuntek a kor                   | 喜んで喜んで             |
| "pirka rok pe kusu askay ruwe oka."         | 「良い子だったので上手になった」   |
| sekor haweoka kor                           | と言いながら             |
| kopuntek kor ki p ne kusu <su>              | 喜びながら言うので          |
| toyta ka a=macihi ekasuy pa                 | 畑仕事も（娘たちは）妻を手伝うことを |
| rupne hike ki p ne kusu                     | 大きくなった子はするので       |
| poronno toyorunpe ne yakka                  | 畑の作物もたくさん          |
| poronno <no> sitcuk kor                     | たくさん秋になると          |
| tu pu epunpa re pu epunpa.                  | 二つの倉、三つの倉を建てた。     |
| ekimne a=pohoutari ki kor                   | 息子たちは山へ行くと         |
| tup sumawe rep sumawe eawnarura.            | 二頭の獲物、三頭の獲物を獲り     |
| tane rupne pa p ne kusu                     | 今や大きくなったので         |
| a=unihi okari ciseroski=an w_a              | 私の家の周りに家を建てて       |
| eun pirka katkemat a=etun <sup>15</sup> w_a | そこに美しい女性を迎えて       |
| a=korpare wa                                | 妻にさせた              |
| sinna a=okayre p ne kusu <su>               | （兄弟）別の家に住ませたので     |
| pirka kamuy rupne kamuy ronnu pa kor        | 立派な熊、大きな熊を獲ると      |
| a=i=tak wa arpa=an w_a                      | 私は招かれて行って          |
| ipe ka poronno a=i=kire.                    | 食事もたくさんさせてくれる。     |
| hosipi=an kusu ne kor                       | 帰ろうとすると            |
| pirka usi a=i=sere.                         | （肉の）良いところを背負わせ     |

<sup>14</sup> henkotpa : 「それでよい、よく出来た」と、そっちを見てうなづくこと。

<sup>15</sup> etun : 直訳すると「～を借りる」。嫁にもらうことをこのように表現する。萱野茂（1994）『妻は借りもの：アイヌ民族の心、いま』（北海道新聞社）参照。

|                                          |                  |
|------------------------------------------|------------------|
| a=i=anire kane wa                        | 持たせてくれて          |
| hosipi=an pe ne kusu                     | 家に帰ったので          |
| nep a=e rusuy ka somo ki no              | 何を食べたいとも思わずにいた   |
| ne korka tane onne=an w_a                | のではあるが、今や私も年若い   |
| kemapase=an <sup>16</sup> .              | 足が重くなった。         |
| a=kor katkemat ne yakka                  | 私の妻も             |
| tane onne wa <wa>                        | 今や年若い            |
| kemapase ruwe ne korka                   | 足が重くなったのだが       |
| matnepoho utari ne yakka toyta wa        | 娘たちも畑仕事をして       |
| sitcuk kor tu pu epunpa re pu epunpa wa  | 秋になると二つの倉三つの倉を建て |
| nep a=e rusuy                            | 何を食べたいとも         |
| nep a=kor_ rusuy ka somo ki.             | 何を欲しいとも思わなかった。   |
| a=kosmatutari ne yakka                   | 嫁たちも             |
| toyta wa tu pu epunpa                    | 畑仕事をして二つの倉を建て    |
| re pu epunpa siri ne yakun <sup>17</sup> | 三つの倉を建てているので     |
| a=kor paskur ... paskur kamuy            | わがカラスの神が         |
| ney pak i=koinkar                        | いつまでも私を見守ってくれる   |
| kuni ye p ne kusu                        | と言ったので           |
| a=pohoutari ne yakka                     | 子供たちのことも         |
| koinkar siri ne kuni a=ramu.             | 見守ってくれているのだと思う。  |
| pirka ekimne yakka pirka ekimne.         | 立派に狩も行い          |
| cepkyoyki yakka pirka cep patek          | 魚を獲っても立派な魚ばかり    |
| ronnu wa arki p ne kusu <su>             | 獲ってくるので          |
| paskur kamuy i=koinkar siri ne           | カラスの神が私たちを見守っている |
| kuni a=ramu wa                           | と思っ              |
| sakekar=an kor a=nomi ranke.             | お酒を造ってはお祀りをした。   |
| "pirka inaw a=kar wa                     | 「立派なイナウを作って      |

<sup>16</sup> kemapase : kema 「足」 pase 「重い」 で、「歳をとる」ということを表わす。

<sup>17</sup> yakun : yakun は「～ならば」と訳されるが、日本語とは違い、すでに起こったことについても使われる。その場合は、「～したということであれば、それは」 = 「～したということなので」と訳すことになる。

|                                                 |                 |
|-------------------------------------------------|-----------------|
| paskur kamuy a=nomi siri ne na."                | カラスの神様をお祀りしますよ」 |
| sekor itak=an kor                               | と言いながら          |
| kamuynomi ka =an <sup>18</sup> pe ne kusu       | 神祀りをしたので        |
| a=poutari ne yakka                              | 息子たちも           |
| nep esimpay epetciw <sup>19</sup> ka somo ki no | 何の心配も怪我することもなく  |
| ekimne ruwe ene an h_i ne siri                  | 狩に行く様子を         |
| a=nukar kor                                     | 見ると             |
| paskur kamuy a=nomi wa                          | 私はカラスの神を祀って     |
| orowano po nispa ne kur                         | いっそう長者に         |
| a=ne kor an=an ayne                             | なって暮らしているうちに    |
| tane onne kuni p a=ne ruwe ne kusu              | 今年年をとったので       |
| “nep ka a=kar katu wen kor <kor>                | 「何か悪いことをすると     |
| wen eoma <sup>20</sup> p ne korka               | 悪い方へ向かっていくものだが  |
| nep ka a=kar katu pirka kor                     | 何か良いことをすると      |
| pirka eoma p ne na.” sekor                      | 良い方へ向かうのだ」と     |
| a=pohoutari a=kaspaotte.                        | 息子たちに言い聞かせ      |
| a=matnepoutari a=kaspaotte.                     | 娘たちに言い聞かせた。     |
| i=okari a=matnepouatri ka cisekar wa            | 娘たちも私の家の周りに家を建て |
| pirka nispa a=numke wa                          | 私は立派な長者を選んで     |
| a=ahupkar wa a=kore wa <wa>                     | (夫に) もらってやって    |
| kor an=an ayne                                  | いるうちに           |
| mippo ka poronno a=kor kor an=an ayne           | 孫も大勢できて         |
| tane kemapase wa isam nispa                     | 今は年老いてしまった長者で   |
| a=ne ruwe ne korka                              | 私はあるが           |
| paskur kamuy i=koinkar wa                       | カラスの神が私を見守って    |

<sup>18</sup> この an を kamuynomi 「神祀りする」の4人称主格人称接辞と見た場合、副助詞 ka を挟んで分離していることになる(分離人称接辞)。ただし、kamuynomi を名詞、an を「ある」という動詞と見ることもできる。実際にはこの両者の間には本質的な区別は無いのであろう。

<sup>19</sup> epetciw : 「(石など)につまずく」『沙流方言辞典』、「～で困った事態になる。～が障害になる」『千歳方言辞典』、「躓(つまづ)く,障り」。epetchiu-sak-no「怪我過失なく,つまづき事なく」『久保寺辞典』。

<sup>20</sup> eoma : 「(...の方へ)向かって行く」『沙流方言辞典』

sino nispa a=ne wa onne nispa

a=ne ruwe ne kusu

a=ye kor onne=an hawe ne<sup>21</sup> na.

sekor kane sine nispa isoytak ruwe ne.

本当の長者になって年老いた長者  
であるので

その話をして往生するのだよ

などと、一人の長者が語ったのだ。

(なかがわ ひろし・千葉大学名誉教授)

---

<sup>21</sup> **hawe ne** : 「今私はこういうことで話をしているのだ」「今私が語っている話はこういうことなのだ」という時に、**hawe ne** を用いる。

Ainu Folklore Text-21  
Nabe SHIRASAWA's *uepeker*  
A Favor from the Crows

NAKAGAWA Hiroshi

**Summary:**

This prose tale (*uepeker*) was told by late Ms. Nabe Shirasawa and recorded by Hiroshi Nakagawa on 1st Oct. 1990. Koji Deriha, a research scientist of Historical Museum of Hokkaido, was in attendance.

**Outline of text:**

I went hunting in the mountains and caught many bears and deer, and lived in abundance. After each catch, I would build a shelf on which I would place the meat and offer it to the god of crows. One day, a splendid figure appeared to me in a dream and told me,

" I am the Crow God, and I am very grateful to you for the meat you have always offered me. In return, I will watch over you and make sure you continue to catch many good prey. And although you were not supposed to be able to have children, I will use my power to make sure that you will have many ones."

After a year of such a dream, my wife became pregnant and eventually gave birth to a boy who looked just like me. Many more girls and boys followed. When my sons grew up, I took them one by one to the mountains and taught them how to hunt. They all became great hunters. My wife taught my daughters how to sew. They all became good sewers. My wife also taught my daughters how to work in the fields, and they produced a large harvest.

I gave my sons beautiful wives and built houses around my house for them to live in, and I gave my daughters fine husbands to live in. When my children harvested a fine bear, they would invite me to their home and treat me to a feast.

In this way we lived a good life and grew old. We thought this was because the crow god was watching over us, so we worshipped the crow god every time we made *sake*. I told my children that if you do something bad, it will go bad, and if you do something good, it will go good, and I became a true chief and died an old man, said one of the chiefs.